

## 桑名市行政改革推進委員会 会議概要（抜粋）

<p>日時・場所</p>	<p>令和元年7月31日(水) 10:00～11:30 桑名市役所本庁舎 3階 第2会議室</p>
<p>出席者</p>	<p>委員：7名 市：2名 事務局：18名</p>
<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市長あいさつ</li> <li>2 委員紹介 (1) 委員長及び副委員長の互選について</li> <li>3 議案 (1) 新行政改革大綱の策定について (2) 六華苑等におけるサウンディング調査について</li> <li>4 報告 (1) スタディランチ～road to 2040～の報告について</li> <li>5 その他</li> </ol>
<p>概要 (主な意見)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市長あいさつ この7年の任期の間で、最も力を入れてきたのは、行政改革であった。厳しい財政状況の中で、改革を行う必要があったが、補助金の見直し、土地開発公社、第三セクター等々、行革委員の皆様にはお世話になってきた。そのおかげで、市民満足度調査結果においても、満足度が上がってきている状況である。 目の前の問題であった合併算定替による影響の中、なんとか令和元年度予算が組め、緊縮財政にも一定の区切りがついた。そうした中で、新しいメンバーで、桑名市の将来を見据えた新しい行革の方針を決めていってほしい。これからの社会情勢が大きく変化していく中で、公務員の働き方の考え方や公民連携など、新しい考え方がどんどん出てきている中で、民間の新しい力を活用しながら、桑名市が前に進んでいくようなまちづくりをしていきたい。</li> <li>3 議案 (1) 新行政改革大綱の策定について  【総論について】 ・見せ方がとても大切であり三重県の中での、桑名市の行政改革という視点で書くとは分かりやすいのではないかと思う。  ・行政改革大綱(案)には、「ヒト・モノ・カネ」の3つの柱としているが、「情報」がない。「情報」を追加することで、大きく視点が変わってくるのではないかと思う。 AIと結びつけるところに、「情報」を入れると市民ニーズをデータベース化していくことになり、そこにAIを活用すると良いのではないか。市民ニーズを</li> </ol>

本当に把握しきれているのか。

言葉や数値だけではなく、市民の取る行動から探っていかなければいけない。そこに AI を活用して、市民ニーズをデータベース化していくことが必要ではないか。

・いろいろな部署で同じ様な取り組みや調査が行われているように感じるが、そういった情報は、庁内で共有できているのか。情報が大切だと認識されているのか。縦割りをなくすためには、情報共有をする仕組みが必要である。

◆桑名市の現状では、行政改革と結びついていないことが問題であり、情報共有を行う仕組みも含めて、情報というものの取扱いに対して、見直す機会が必要である。

・収入の増加につながる企業からの税収を上げることが必要だが、方向性を示していくことで、市役所と企業が一緒にやりやすくなるのではないか。モデルとなる職員が数人出てくると、明確化されていくのではないか。

・私は来年、65 歳を迎えることになる事で、生産年齢人口に該当しなくなるが、個人的にはまだまだ頑張れると思っている。

そのような中、優秀な 65 歳以上の人はたくさんいるが、場所がないと言っている。場所さえあれば、もっと活躍してもらえる。活躍してもらえる場所を与えるような政策を考えてほしい。

◆日本全体としては、人口減少・少子高齢化社会は変わらないと思うが、桑名はインフラ・交通の整備がされており、リニアということも考えると、産業をより集積しやすくなり、人口も推計のように減少しないのではないか。それを見たとまちづくりを考えていく必要がある。暮らしの中の質を守って、みんなで色々やっという形になっていかないといけない。みんなでやるということで、まちが良くなっていくということが大切だと思っている。まちづくり協議会の設立に順次あたっており、地域の問題を地域の人で解決していけるように。その中で、場所がないということであれば、まちづくり拠点施設で地域の人が自由に使えるようにしている。地域コミュニティの視点で取り組んでいる。

### 【「ヒト」について】

・人口減少と「ヒト」（職員）の話とのつながりが見えにくいと感じる。

職員の質を向上するならば、あわせて市民参加の意識向上も必要である。「ヒト」の問題は人口減少だけでなく、質の問題も取り上げてみてはどうか。

・生産性をどのように維持していくかということは、外部人材をどう取り入れていくかということだと思う。「地域に関わりたいけど、できない」と思っている人はたくさんいる。そういう人たちを活用していくことが大事だと思う。

支出の面から考えても、そうした外部人材の効率的な活用を考えることによって、コストダウンにつながっていくと思う。

公務員のスキルアップは難しいのかもしれないが、兼業ができるようなシステムづくりなどによって、モチベーションアップも期待できるのではないか。

◆AI・RPA が全面に盛り込まれているが、得意なことは得意な人にしてもらって、外部人材にってもらおうという視点が抜けているのかなど、話を聞いて感じた。内部のスキルアップしか考えてないが、外部でやってもらうことも大切だと感じた。

・情報も公民連携も目的ではなく、手段（ツール）の一つである。ヒトの部分では、能力開発ではなく意識改革が必要である。  
 まちが目指しているもの（目的）と、ツールとしてのものを分けて考えないといけない。

・建設業界において働き方改革で、今年のことを今年やるという考え方がものすごく邪魔になる。入札の発注方法について、分離発注と長期の発注をまとめて発注できるようにすることで、契約がまとめてできるようになり、働き方改革につながる。やっていくために、制度を変えていく必要がある。

他市の事例では、途中で話がつぶれてしまったが、ある程度のところまで話が進んでいたところもある。

【その他について】

・RPAについて、実際の運用はどのようになっているか。  
**◆昨年度の実証実験を踏まえて、今年度、対象事業を本格稼働し、対象事業についても順次拡大していく。**

・三重県の中の特徴として、特に桑名市は、働くということに対して意識が低い女性が多い。裕福な方が多いから働くつもりがない人が多いと感じる。しかし、持っているポテンシャルは高い。そうした人たちを活用していくことは有効である。

-----  
 (2) 六華苑等におけるサウンディング調査について

・素晴らしい取り組みだと思う。民間の事業者がコンセションをよく理解していない場合があるため、こうした取り組みを進める中で、「事前にどういうものなのか」という説明会をしておくことも大切である。約4時間かけて事前説明をした自治体がある。説明は丁寧にしたほうが良い。

・外部の人材で、プロデューサーを設けると良いのではないか。  
 ・プロデューサーが有名な人であったり、見せ方がうまい人であれば、より効果的に進むのではないか。  
 ・プロデューサーのような人がいて、3～5年くらいで異動しながら活躍している自治体もある。  
 ・人それぞれ地元の企業でも得意分野があり、どういう人が良いかというのは、本部ではなく、地元の支店長が一番良く精通しているため、相談があれば支店長に持ってきてもらえればと思う。  
 ・地元の企業との連携をしっかりとできる人に来てもらうことが大切。しっかりとした情報が収集できる体制をお互いに整えることが必要である。  
**◆ご意見をいただくなかで、個別の案件について調整できる人が必要と感じている。**

・Bizセンター（ビジネスサポートセンター）の取り組みが注目されている中で、マッチングのスピードを上げるために、施設の目的の「見える化」などを進めていくと良いのではないか。

◆まちづくりの「見える化」を進めるため、ブランド推進委員会においても住吉地区の取り組みについて議論をしていただいているところである。ブランド推進課と連携して、ブランディングも進めていく。

・既に廃止となった北庁舎などの情報を公開して、もっと民間からの意見を取り入れたほうが良いと思う。

・たくさんあると、どこから手を出していいかが分かりにくくなり難しいと思う。やはり、絞ってもらったほうが良い。コンサルとの条件をしっかりと取り決めしておくことも大切。

◆オープンデータ（ホームページ上で保有する情報を出す）から、提案を求める仕組みを確立したが、あまり良い反応が得られなかった。施設を限定するなど絞って、提案を求めるようにした方が良いかもしれないと感じる。

・六華苑については、このまま進めていただいて良い。その他にも空き庁舎など、他の施設の話も、引き続き検討してもらえればと思う。

#### 4 報告

##### (1) スタディランチ～road to 2040～の報告について

- ・固定メンバーで行っているのか。
- ・業務指示をして、行っているのか

◆業務ではなく、部活動のような感じで行っている。基本的には公募で。声掛けは行うこともある。1年は固定で。また、人を変えて行いたいと考えている。

・（自身の企業でも）過去にトップ3が若手職員をあつめて、同様の取り組みをしたことがあるが、報告や質問内容についての確認などがあつた。そのことにより、みんなから嫌がる声が上がって、取り止めになったことがある。強制をしないように進めることが大切だと思う。

・2040年問題を議論するなら、ぜひ「そもそも本当にそうなるのだろうか」というところから議論をはじめてほしい。

・写真を撮って、そういった取り組みをしていることを情報共有して欲しい。雰囲気だけでも伝わるようにして欲しい。

・報告書は、作らなくてもいいと思う。それくらいの自由度が良い。